

2020年鹿児島県男女共同参画週間 啓発パネル

いまだからこそ！届けたい「つながることば」～男女共同参画マインドで綴るあなたへの手紙～

このパネルは、令和2(2020)年度鹿児島県男女共同参画週間の啓発用として作成しました。

パネルは、今回の県男女共同参画週間に合わせて制作されたドキュメンタリー映画「信頼の回覧板」に登場するみなさんの「つぐやき」とそこから見えてくる鹿児島の現状を各種調査や統計から読み解いたもの、そしてこれからの課題と展望について鹿児島県男女共同参画審議会会長のたもつゆかりさんに御執筆いただいたコラムから構成されています。

パネルの大きさ：B2版 枚数：全11枚(縦)



令和2年度鹿児島県男女共同参画週間展示の様子
(2020.7.25～8.22 かがしま県民交流センター)

◎各パネルのテーマ

- 1 はじめに
- 2～4 映画「信頼の回覧板」の紹介
- 5 子どもたちの未来への責任、「ジェンダーの再生産」を止めましょう！
- 6 いよいよ待ったなし！性別役割分業社会システムの限界
- 7 私にも、あなたにも“あるある！”無意識のジェンダー・バイアス
- 8 個人としての適性・能力よりも性別役割が優先され重要視される「女性ならではの視点」の問題点！
- 9 農業の男女共同参画は「農業女性の「個」としての地位向上」から始まりました！
- 10 SDGs - 一人として取り残さない！持続可能な開発目標 -No. 5- ジェンダー平等を実現しよう！-
- 11 おわりに

2020年鹿児島県男女共同参画週間 啓発パネル①

いまだからこそ！届けたい「つながることば」～男女共同参画マインドで綴るあなたへの手紙～

パネルの一部を紹介します。



いまだからこそ！届けたい「つながることば」
～男女共同参画マインドで綴るあなたへの手紙～

はじめに

このコロナ禍にあって、私たちは、これまで今日から明日へと淡々と送り過ごしてきた「日々の暮らし」の大切さを想いました。

近い誰かと手をつなぎ、ときには嬉しい・悲しいを分かち合うハグがあったり、仲間たちとの親密な語りを楽しんだり…、私たちの日常の時々を潤し、励ましてくれる「つながりの景色」のゆたかな彩りは、「ステイホーム」「フィジカルディスタンス」を求められる中で薄くなり、あなたが私を、私があなたを思いやる2メートルの距離のほどかしさに、あなたに寄せる「このころの距離」は、これまでより近く、深くなりました。

新型コロナウイルスの脅威に晒される私たちの暮らし…様々な不安や困難、ストレスをかかえる中で、分断と格差の状況や差別・偏見の言動が際立つ社会の景色が見えることもあり…、そんなとき、あなたも社会のありかたを自分の暮らしに寄せて考え、心を痛めたのではないのでしょうか？

Personal is Social (個人的なことは、社会的なこと)

男女共同参画は、あなたが、生活上の困難に直面するとき、幸福追求の道を阻まれるとき、その個人的な状況に影響を及ぼす社会のありかたについて、“性別”に焦点を当てて考え、学び、行動し、すべての人の人権の実現に向かう取組です。

未曾有の状況の中での今年の「鹿児島県男女共同参画週間事業」は、このころの距離を、近く、深くに…という願いを込めて、こんないまだからこそ「つながることば」をあなたに届けて、オンラインにより発信するドキュメンタリー映画を制作しました。

本展示は、この映画のために綴られた10通の手紙の中で、男女共同参画を自分事に引き寄せたことばたちが問いかける男女共同参画のリアルをまとめました。

このリアルは、あなたには何を問いかけるのでしょうか？

『信頼の回覧板』を託した小包の旅のはじまり

鹿児島県の男女共同参画週間事業の公募がはじまったのは4月。新型コロナウイルス感染症の影響があっても実施できるよう、これまで男女共同参画を学んできた私たちからの手紙の朗読を映画にしてオンラインで上映するという企画を提案しました。

採択決定後、あれやこれやと想いを語る私に、手紙を書くところも撮影して次の人につなげていくプロセスを映画にしてはどうか？と、上田謙太郎監督が私たちの想いをカタチしてくれた映画が『信頼の回覧板』です。

コロナ禍にあって監督が鹿児島にやって来て撮影することはできませんし、私たちで集まって力を合わせて撮影に挑むこともできません。

慣れない私たちのために監督がつけてくれた「ドキュメンタリー映画のための撮影の手引き」を傍らに…四苦八苦…。自宅で自分を振り、近くの好きな風景を撮り、監督にデータを送るというリモートによる映画づくり。

小包をあけて、手紙を読んで、書いて、それを継続するところを撮って、また小包にして次の人に送る。てまひまをかけたこの丁寧な営みを通して、回覧板を送ってくれた人、受け取ってくれる人たちへの信頼が深まっていくのを感じました。

振り返ってみると、この旅は経験のない私たちに撮影を任せるという上田監督が寄せてくれた信頼をゆきにして、はじまることも終わることもなかったことに気づきます…。

『信頼の回覧板』を託した小包の中に入れてもの

小包の中には、手紙を書くノート、スマートフォンスタンド2種、小包紙、切手、郵便小包の伝票、インスタントカメラ、「ドキュメンタリー映画のための撮影の手引き」、回覧の手順書と、名簿を入れました。

回覧する仲間たちの中には、会ったことのない人同士も含まれていますので、それぞれが、日々の暮らしの中で思ったこと、考えたことを書いた「つぶやきカード」も入れました。つぶやきに共感を寄せた人に回覧板を送り、つなげていこうと試みたのが『信頼の回覧板』です。



2020年鹿児島県男女共同参画週間 啓発パネル②

いまだからこそ！届けたい「つながることば」～男女共同参画マインドで綴るあなたへの手紙～

パネルの一部を紹介します。

つながることば

どうして、いろんな行事や式などで、いつも男子が先なのかな？

「女の子がそんなもんになってどうするんだ？」

「みんな同じ＝すばらしい」ではなく、「みんなちがう＝すばらしい」になってほしい。一人ひとりの個性がいかされる、性別にかかわらず暮らしやすい社会に私は生きていきたいです。



男女共同参画のリアル

2019年 大学（学部）への進学状況

性別	割合
男子	33.7%
女子	50.7%
男子	42.6%
女子	56.6%

2019年、全国の大学（学部）進学率は、女子が33.7%、男子が42.6%と女子の方が8.9ポイント低く、全国の男女差と比較すると3.0ポイント低い。女子の進学率は、全国で最も低く、最も高い東京とは倍以上の差がある。
文部科学省「令和元年度学校基本統計」のデータから算出

令和元年度 教員の管理職における女性の割合

学校種別	割合
小学校	14.3%
中学校	10.0%
高等学校	6.3%

本県の学校のうち小学校、中学校、高等学校における管理職（校長、副校長、教頭）割合に占める女性の割合。
「令和元年度学校基本統計」鹿児島県の子 夕から算出

子どもたちの未来への責任、「ジェンダーの再生産」を止めましょう！

私が少女だった頃の社会の景色は、「男性ファースト」が当たり前でした。学校での成績が1番良かったとき、2番目の男子への「女に負けて悔しくないのか？」という先生のことばに、何となく哀しくなりました。あれから半世紀経つたいまも、「女の子なんだから」「男の子なんだから」と区別され制約され排除されることで、子どもたちの幸福追求の可能性に影響を及ぼしています。

あのときの「何となく哀しい」が引きずる秋然とした「名前のない問題」は、大人になって知ったジェンダー（社会的・文化的に形成される性別）によって、その正体が明らかになりました。「私は、私でありたい」という言葉が、子どもたちの未来を背負っています。

女性のみなさん、男性にも「一人の尊重」に係る様々な責めをもちあわしている「男性ファースト」の文化、男女格差の状況は、いつまで続くのでしょうか？社会の景色、大人たちの姿は、子どもたちの未来への責任を背負っています。

いまを生きる私たちが「ジェンダーの再生産」を止めよう！ジェンダーは、「く」られたものだから変えられる！と、男女共同参画は行っています。

つながることば

新型コロナウイルスによる不況の中、多くの非正規雇用女性が危機的状態にあると報道されています。～私と同じ「ロストジェネレーション」「失われた20年」の当事者です。

せっかく制度ができて、それがかえって、固定的な性別役割分担を助長してしまっていたり…。だからこそ、絶え間なく男女共同参画の視点をもって見つめ続けていきたいなと思います。




男女共同参画のリアル

2017年 非正規雇用の割合

性別	割合
男子	22.7%
女子	57.9%

平成29年度就業構造基本調査結果～鹿児島県の概要～
鹿児島県労働政策調査委員会（令和2年6月）

新型コロナウイルス感染症に搬送した併発や備い止め

（6月29日時点、見込み含む）

412人

5月25日以降の172人中
 114人が非正規雇用

66.3%

新型コロナウイルス感染症に搬送した併発や備い止め（6月29日時点、見込み含む）

新型コロナウイルス感染症に搬送した併発や備い止め

（6月29日時点、見込み含む）

412人

5月25日以降の172人中
 114人が非正規雇用

66.3%

新型コロナウイルス感染症に搬送した併発や備い止め（6月29日時点、見込み含む）

新型コロナウイルス感染症に搬送した併発や備い止め

（6月29日時点、見込み含む）

412人

5月25日以降の172人中
 114人が非正規雇用

66.3%

新型コロナウイルス感染症に搬送した併発や備い止め（6月29日時点、見込み含む）

いよいよ待ったなし！性別役割分業社会システムの限界

男性共同参画社会の実現に向けた取組は、性別役割分業社会システムの限界を見直し、その改革を柱として進めています。

男性は労働市場での生産を担い、女性は世帯における家事・育児・介護や育児によるサービス供給（世帯内資源生産）を担うことを基本とする性別役割分業社会システムは、人口増・若年層の経済成長を基調とする高度経済成長期に形成されましたが、それが成り立つ前提には、終身雇用・年功賃金を軸とする日本型雇用慣行により、人々の生活水準を支える雇用の深さがありました。

かつて現在、あの当時に「分業の中階層」を成した正社員層の片側は世帯は減少し、正社員男性と主婦パートによる未婚二世帯が中心となり、さらに、バブル経済崩壊から約10年間に就職活動期にあつた人たちは、景気悪化の経済環境により、その将来の生活基盤を支える雇用の保障を失われた「就職氷河期世代」も「ロストジェネレーション」と呼ばれ、現在も就業・非正規雇用の常態化等による、困難な状況に置かれています。

本来、社会の活力の中核であるはずの世代に広がる格差は、このコロナ禍に直撃されています。働くことを保障する労働権は、すべての人の多様な進路を果敢的に実行する大切な権利です。

アフターコロナ社会のビジョンに、個人の尊重を前提に、男女がともに労働者であり生活者であることができる男女共同参画社会の実現に向けた基盤整備が、さらに確かに掲げられるべきでしょう。

2020年鹿児島県男女共同参画週間 啓発パネル

いまだからこそ！届けたい「つながることば」～男女共同参画マインドで綴るあなたへの手紙～

パネルの一部を紹介します。

女性たちが、農業の中心的な担い手として働きながらも、家族労働という特殊な形態の中で、一人の労働者として賃金を得ることができない、いわゆるアンペイドワークの問題があった。

男性は細から帰って来てゆっくりできますが、女性は汚れた作業着の洗濯から、夕食の支度、片づけと休む暇がありません。さらに育児や介護が加わることも…。



つながることば

男女共同参画のリアル

農業就業人口の男女別の割合

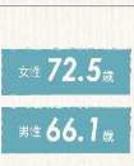


鹿児島県「かごしまの農業2020」/鹿児島県「2016 森林・林業センサス鹿児島県結果集（確定版）」

販売農家における経営者の男女別の割合



販売農家の経営者の平均年齢



農業の男女共同参画は「農業女性の「個」としての地位向上」から始まりました！

あれから20年、農業も農村には、どのような男女共同参画の風が吹いているのでしょうか？

1992年に発表された「新しい農山漁村の女性2001年に向けて」で「農業女性の「個」としての地位向上」ということばに生かされたときのカルチャーショックを受けたことは、いまも鮮明に覚えています。家庭内、世帯内、固定制特別役割分担意識によるジェンダー偏重が、女性の個人としての能力発揮を阻み、持続可能な農業の発展に影響を及ぼす…という視点は、農業にもあらず、あらゆる分野の将来を見据える必要がありました。

1992年に発表された「新しい農山漁村の女性2001年に向けて」で「農業女性の「個」としての地位向上」ということばに生かされたときのカルチャーショックを受けたことは、いまも鮮明に覚えています。家庭内、世帯内、固定制特別役割分担意識によるジェンダー偏重が、女性の個人としての能力発揮を阻み、持続可能な農業の発展に影響を及ぼす…という視点は、農業にもあらず、あらゆる分野の将来を見据える必要がありました。

80年代の後半の頃、「農業とジェンダー」に関する研究書にあった「農業女性は、アンペイドワーク（支払われない労働）の連続を生きている」という一文と、それに重畳されたデータが示す総労働時間（家事労働+労働時間）の長さ、それまで出会ってこなかった女性たちが語ってくれた「農家の様」の状況が重なりました。

家族経営協定等の施策により現在の状況は好転していると思われませんが、鹿児島県の男女共同参画（ジェンダー平等）について考えるとき、美鈴産業である農業の重要な担い手として大きな役割を果たしている女性たちが、それぞれに合う公正な評価と待遇を保障されているのか？その労働環境の整備は進んでいるのか？等…その実情が気になります。

つながることば

先に生まれた方に重要な役割が与えられるのは違和感があります。

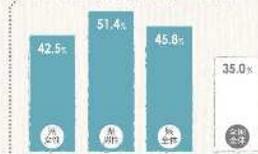
「男・女」という性別による役割分業の意識や慣習は根づく簡単に変えられるものではありませんでした。

「一人ひとりが大切にされる社会、誰ひとり置き去りにしない社会」をめざす様々な取り組みを考え、行動していく私でありたい…。



男女共同参画のリアル

「夫以外で働き、妻は家庭を守るべき」という考えかたについて

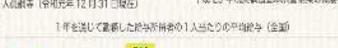


鹿児島県「男女共同参画推進に関する県民意識調査」（平成28年度）内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」（令和元年度）

議会における女性議員の比率



15～34歳の雇用者に占める非正規の職員・従業員の割合



地方公共団体の議会に議員及びその関係者以外に
人員数等（令和元年12月31日現在）
「平成29年度県民意識調査結果集」の掲載。
1年を通じて更新した給与所得者の1人当たりの平均給与（金額）

性別	金額
男性	504
女性	386
平均	450

SDGs—誰一人として取り残さない！持続可能な開発目標—No.5—ジェンダー平等を実現しよう！—

持続可能な開発目標（SDGs）のターゲット5に「性別平等」が掲げられており、その5の目標であり、17の目標と169のターゲットのすべての基礎に重要とされるジェンダー平等（男女共同参画）についての理解の状況は、SDGsへの関心の高まりに表れているのでしょうか？

「二十一世紀我が国社会を決定する最重要課題」とされる男女共同参画（ジェンダー平等）は、人権と環境に負荷を与えない20世紀社会から21世紀社会への構造的転換に向けて、性別役割分業システム（ジェンダー構造）の改革を促すことだったはずですが、昨年度の男女格差を測るジェンダーギャップ指数（GPI）は、153カ国中121位という状況です。

単純・単純化の強い手として固定化される女性の生産過程への参加を阻む機会の不平等に非正規雇用の女性化という状況が繰り返され、男女の賃金格差につながるジェンダー平等の実現に不可欠な貧困からの脱却は、貧困と格差の連鎖という観点からも誰一人として取り残さないSDGsの目標を成す重要な課題です。

また、一人ひとりの人権が尊重される経済開発の方向を示すSDGsの取組において、女性のみなならず若年層の非正規雇用による「貧困と格差の広がり」に影響を及ぼし受身の格差につながる資源コンロール等意思決定への性別・年齢等多様な人の参画の機会が平等に保障されることへの対応が要請されます。